

11 教員組織

進捗状況報告

【11.0.1 教員組織】

キリスト教思想・文化を専門領域とする教員として、2006年度に女性を1名採用した。また本学キリスト教と文化研究センターや各学部におけるキリスト教関係教員（宗教主事・宣教師）の活用も積極的に進めており、講義科目だけでなく演習科目においても授業を担当する例がある。

学部科目における宗教主事（高等部含む）・宣教師授業担当者数と担当科目数は以下のとおり。

- ・2005年度 担当者数 5名 担当科目数 7科目
- ・2006年度 担当者数 5名 担当科目数 8科目
- ・2007年度 担当者数 8名 担当科目数 8科目

【11.0.2 教育研究支援職員】

教育への支援体制につき、教務補佐・教学補佐による授業資料の準備、授業のための視聴覚機材の設置・操作など最低限の水準を確保し得ているが、いわゆるティーチング・アシスタントの役割につき、具体的な授業科目や内容について将来構想委員会・カリキュラム研究委員会で検討を開始している。

【11.0.3 教員の募集・任免・昇格に対する基準・手続】

教員公募については、2005年度に実施を行い、2006年度に1名（キリスト教文化領域）を採用した。また、2007年度には、2名（新約聖書学1名および牧会カウンセリング1名）の募集を行っており、現在選考中または継続募集中である。

いずれの募集においても、募集要領中にジェンダーや人権教育に関心を抱く者が望ましい旨を明記し、選考においても考慮している。

【11.0.4 教育研究活動の評価】

2006年度より神学部教員人事委員会を恒常的なものとして設定したうえで、大学の教員選考基準に基づいた「教員選考基準についての神学部内規」を制定し（2006年度制定、2007年度施行）、将来を見据えて任用していく体制が整った。

任用における選考審査は、教授会が選定するメンバーによる審査委員会において、内規に明記された研究業績と照らしつつ厳正に行われている。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

履修コース間での学部教員配置につき、いわゆる学科制度を取り入れてはならず教員はすべて学部に所属している。よって、コース間の適正配置については検討していない。しかしながら、思想・文化領域を担当し得る教員の任用・採用については引き続き努力していく。

本学の制度における教務補佐については、職務として教務事項を補助するために採用されているので問題ないと思われる。教学補佐（大学院生）については、現行の職務にないティーチング・アシスタントとして採用することにより、より将来の進路や研究に有用なものとすることを検討中である。現在、そのような役割の確立へ向けて検討・整備を進めている段階にある。

2006年度認証評価で指摘を受けた年齢構成比・出身校の割合について、2006年度に新規採用した女性教員は他大学出身である。よって年齢構成比および出身校の割合については以下ようになった。

2007年5月1日現在在籍する教員（計12名）の年齢構成比は、41～45歳代41.7%、46～50歳代 8.3%、51～55歳代 8.3%、56～60歳代25.0%、61歳以上16.7%。

また関西学院大学出身者の割合は、2007年5月1日現在66.7%（他大学出身者33.3%）となっているが、本学出身教員においても、本学以外の大学院で学位を取得したり、他大学に在職し、後に本学部に就任しているケースも多いことを付記しておく。

学内第三者評価

教員の欠員1名が女性教員によって充足されたことは評価できる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
・教員採用、選考基準に対する内規の制定など、諸課題に対する施策は着実に進んでいる。
・但し、2006年度認証評価で指摘を受けていた専任教員の年齢構成比、出身校の割合のアンバランスである点についてはどのように改善を進めようとしているかについて記述がほしい。
・TAの役割の検討は進行中であり、検討結果が待たれる。